

芦別市内のアイヌ語地名を学び、現地を見学

今年、北海道命名150年となったことに関連して、星の降る里百年記念館の特別企画「芦別のアイヌ語地名を知る・訪ねる」が6月23日開催されました。

芦別の由来がアイヌ語の「アシュ・ペツ」(立つ川の意)など、市内には多くのアイヌ語にちなむ地名があり、それらの主なものを学ぶとともに、

実際に現地を訪れようというもので、28人が参加しました。

午前、星の降る里百年記念館内で座学、午後からは松浦武四郎が探検し、史料も残されている空知大滝＝写真＝をはじめ、三段滝などを訪れ、参加した皆さんは、「北海道」となる以前のアイヌの歴史に思いを馳せたようでした。



自衛隊第11音楽隊が公演。市内小中高校生と合同演奏も



陸上自衛隊第11音楽隊コンサート2018「芦別公演」が、6月24日、市民会館で開催され、約460人が会場を訪れました。

当日は、前半は同音楽隊がテレビドラマのテーマ曲や行進曲など、長年培った実力通りの演奏を披露しました。

後半は、同音楽隊に加え、芦別小学校スクールバンド、芦別中学校吹奏楽部、芦別高校吹奏楽局が出演し、総勢100人により、『銀河鉄道999』、『やってみよう(ピクニック)』を演奏。迫力満点の演奏で聴衆を魅了しました。

第69回芦別高校学校祭が、7月7日、8日の2日間行われました。

今年のテーマは「Can you still dance?～青春はこれからだ!～」。

7日は恒例の市内行進と市役所

前でアトラクションが行われ、1年生から3年生まで全9クラスが、それぞれ工夫をこらして制作した色とりどりの衣装をまとい、自分たちで考えたストーリーに合わせて、歌や踊りを披露。笑顔いっぱい、熱演する生徒たちに、見守る市民の皆さんからは盛大な拍手が送られていました。



夏本番 青春も真っ盛り 市内2高校で学校祭

芦高祭▲

▼星槎祭



7月21日、星槎国際高等学校で「第19回星槎祭」が開催されました。例年、10月に行っていましたが、今年は芦別健夏まつりに合わせて初めて夏に開催。会場も校舎前など屋外をメインとしました。

今年のテーマは「繋^{つな}ぎ～未来への輪」。生徒一人ひとりの力と教師、保護者、地域が一丸となって

の学校祭づくりを意識したとのこと。

会場では、開校以来協力している頼城地区の皆さんを中心とした「おばちゃんのお店」や保護者会の出店が並んだほか、校舎内のステージでは、生徒らによる軽音楽グループの演奏が行われるなど、にぎわいを見せていました。